

米国向け海上コンテナ輸送、8月4.6%減 経済先行き不安で

2011/9/21 23:39 | 日本経済新聞 電子版

経済の減速している米国向け海上輸送の停滞が鮮明になっている。8月のアジア発米国向けの海上コンテナ輸送実績は前年同月に比べ4.6%減った。減少は3カ月連続。米国経済の先行き不安を背景に年末のクリスマス商戦向けの出荷を遅らせる動きが相次いでいる。

米国系調査会社ゼポがまとめたアジア10カ国・地域発のコンテナ輸送量は124万3972TEU(TEUは20フィートコンテナ換算)。国別では全体の6割を占める中国が4.1%減の75万4141TEU。日本発も1.2%減の5万6814TEUだった。中国発は家具や家電、衣類などが伸び悩んだもよう。

アジア以外も含めた米国のコンテナ輸入量も2.8%減った。

運賃も軟化している。指標となる中国発の運賃は1FEU(FEUは40フィートコンテナ換算)あたり西岸向けが1633ドルと1カ月前に比べ7.6%、東岸向けが3209ドルと同4%下がった。例年なら需要期に向けて運賃が上がる時期だが、「船のスペースが埋まらず稼働率が下がっているのが響いた」(外資系海運会社)という。

NIKKEI Copyright © 2011 Nikkei Inc. All rights reserved.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。